



再チャレンジ

看護師として15年ぶりに復職 好きな仕事をあきらめないで

社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀県病院 安間順子 さん



【安間さん】大阪府出身。看護学校卒業後、総合病院に6年間勤務。夫の転勤をきっかけに離職し、15年ぶりに滋賀で復職。現在は内視鏡センターの主任看護師。

Data

社会福祉法人 恩賜財団 済生会滋賀県病院

滋賀県栗東市大橋2丁目4-1

077-552-1221

<http://www.saiseikai-shiga.jp/>

職員数 888人(男性252人、女性636人)

業種 総合病院

○70年の歴史のある栗東地域の総合病院

○平成25年には院内保育施設を設置



人とのかかわりを求めて看護師に

この仕事を選んだのは、子どものころから人と接することが好きだったこともあり、たくさんの人に関わることができる考えたからです。何かしら手に職はつけておきたいという思いもありました。

整形外科病棟に勤務して6年がたったころに結婚が決まりました。夫は転勤のある仕事をしており、すぐに東京へ移ることになったのです。いつか復職のチャンスもあるだろうと決意し、ついていくことにしました。その後も2年に一度のペースで転勤を繰り返すなか、3人の子どものにも恵まれました。人づきあいを好む性格のおかげでしょうか、幼稚園や学校ではPTAを経験させていただくことも多く、引っ越す先々で色んなおつきあいをさせていただきました。

社会とのかかわりを持つことができ、ありがたく思う反面、復職を考える暇もないほどにぎやかな生活が続きました。

夫の理解と協力を得て復職

幾度目かの夫の転勤で4年間過ごした香港から滋賀へ移ったのは、末の子が小学5年生になり、家事も少し落ち着いたころのことです。引っ越し先の街の様子をうかがうべく、いつものように近隣を歩

いて回りました。すると、偶然にも滋賀県の看護協会にたどり着いたのです。働いていたころへの懐かしさも手伝い、自宅に戻ってホームページを覗いてみました。目に留まったのが離職中の看護師に向けた再就職セミナーでした。今の医療現場はどうなっているのかといった興味もわきましたので、参加してみることにしたのです。

15年のブランクながら、看護の基本に大きく変わるところはなく、これならやれるかもと思いました。早速夫と話し合いをしたところ、次からは単身赴任すればすむことだからと背中を押してくれたのです。上の子どもたちは高校受験も間近、ここに残ったほうが落ち着いて勉強できるだろうという配慮もそこにありました。

年下の先輩たちに 助けを借りながら 常勤、そして主任看護師へ

現在勤務している滋賀県病院はセミナーの実習が行われたことをきっかけにお声がけいただき、夜勤のないパートでの勤務となりました。

術式は高度化しており、患者さんの回復も早く、以前より楽になったのでは思ったほどです。一方、手続きは増え、電子カルテには少し苦労しました。周りを

見ると大半の看護師は20代。でも、同じ仕事を何度聞いても嫌な顔することなく、誰もが気さくに応援してくれました。さりげなく様子をうかがってくれる病院側の配慮も嬉しく思いました。

常勤へのステップアップを目指し、3年前に内視鏡センターへ異動し、2年間勉強して今年、内視鏡検査技師の試験にチャレンジし資格を取得しました。今は、内視鏡センターの主任看護師として日々、患者さんが安心して検査が受けられる様にお手伝いしています。上の二人は大学生となり、子育ても間もなく終了です。チャレンジしたくてもブランクの長さだけ消極的になる人もいるかもしれませんが、でも好きな仕事ならなんとかなるのではと思います。ぜひ勇気をもって一歩を踏み出してみてください。

